

高齢者保健福祉計画における 地域包括ケア推進の重点的な取組について

令和3年3月

枚方市 健康福祉部 地域健康福祉室
健康福祉総合相談担当

「地域包括ケアシステム」は、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、その有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、医療、介護、介護予防、住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保される体制です。

ひらかた高齢者保健福祉計画21（第8期）第6章（案）

- ▶ 第7期（平成30年度～令和2年度）
 - ・在宅医療・介護連携の推進
 - ・認知症施策の推進
 - ・生活支援・介護サービスの基盤整備の推進



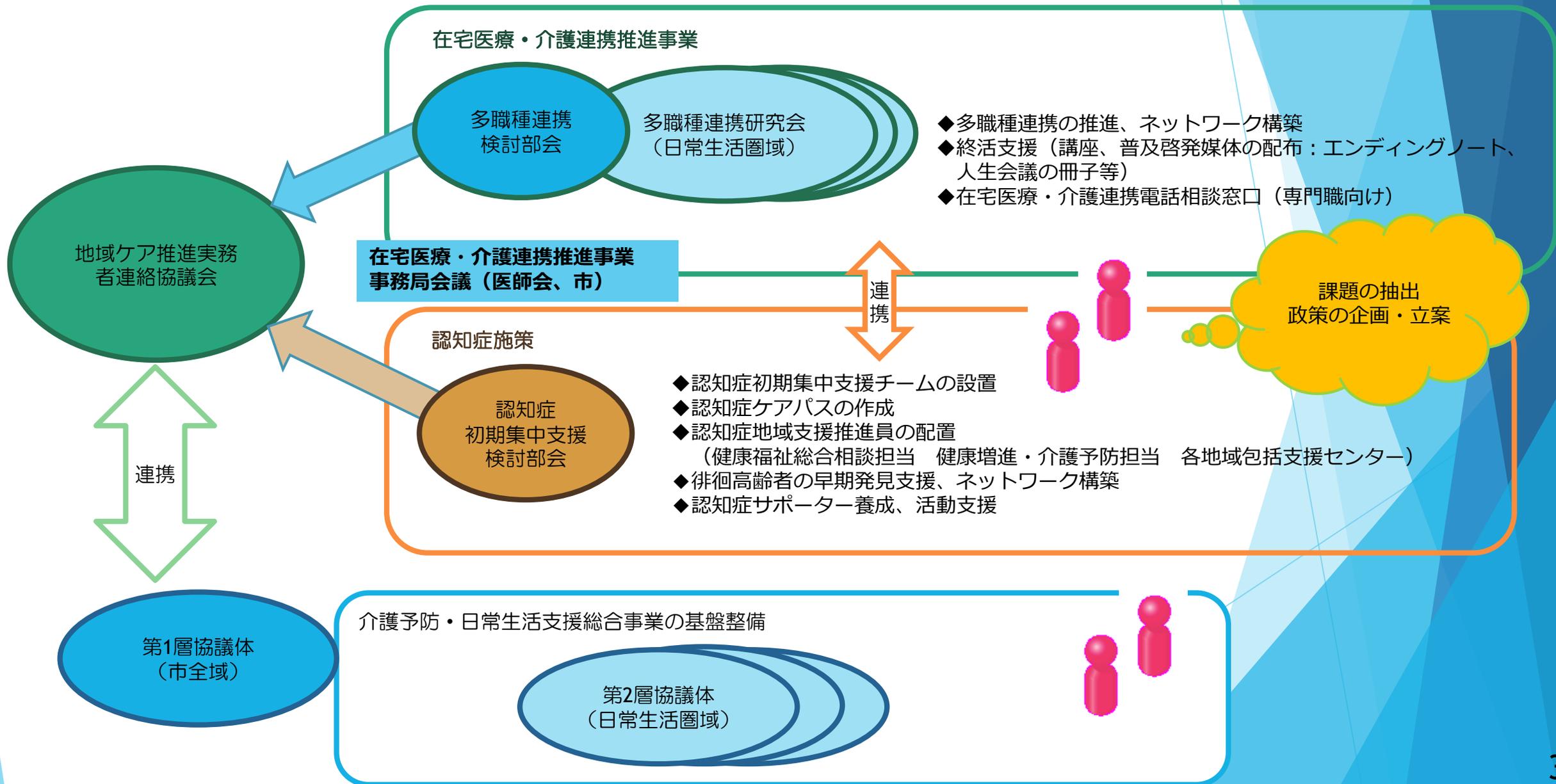
- ▶ 第8期（令和3年度～令和5年度）
 - ・これまでの地域包括ケアシステムの深化・推進
 - ・2025年(令和7年)、2040年(令和22年)を見据えた段階的な取り組み

【国の動向】

地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の構築や切れ目ない支援の実現

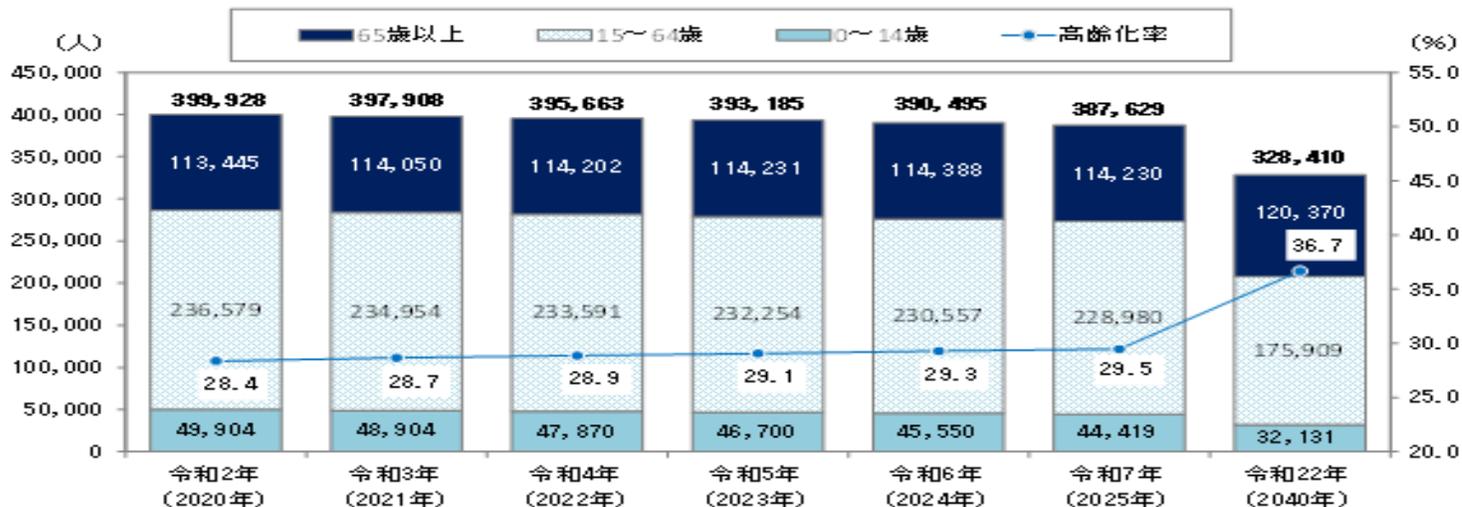
「地域共生社会実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律」の公布

枚方市の取り組みイメージ

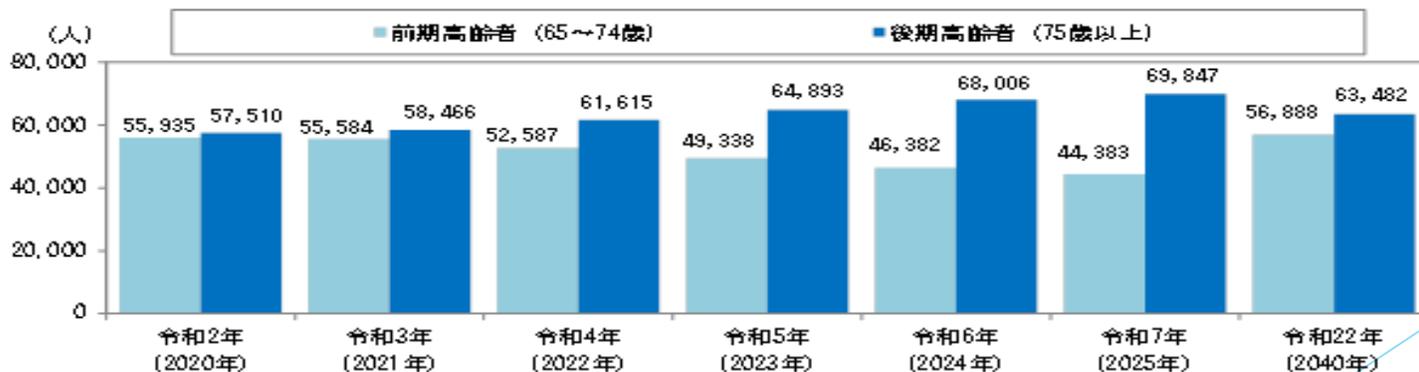


枚方市の将来人口推計について

■枚方市の将来人口推計



■枚方市の前期高齢者数・後期高齢者数の将来推計



資料：平成28年から令和2年までの住民基本台帳人口（各年10月1日現在）各歳データをもとにコーホート変化率法で推計。
※上記の図表は令和2年のみ実績値。

ひらかた高齢者保健福祉計画（第8期）重点施策① 在宅医療・介護連携推進の取り組み

令和2年度の取り組み

▶ 圏域レベル

- 地域包括支援センターを中心とした多職種連携の取り組み
- ・多職種連携研究会、事業者連絡会等

▶ 市域レベル

- ◆多職種連携検討部会
- ◆在宅医療と介護連携に関する支援業務委託（医師会委託） 事務局会議
 - ・各種講演会（医師向け：在宅訪問診療医の増加、専門職向け：ACP支援、市民向け：終活支援
 - ・普及啓発媒体、かかりつけ医マップの作成・配布
 - ・在宅医療・介護連携電話相談窓口設置：非常勤コーディネーター対応

第8期（令和3年度）

【拡充】専任コーディネーター増員設置

【拡充】在宅医療・介護連携電話相談窓口設置：訪問看護ステーション管理者対応
電話相談対応におけるバックアップ医師の配置

介護支援専門員等の専門職への支援強化

介護支援専門員等と訪問看護ステーションの圏域の連携強化

在宅医療・介護連携推進の取り組み

1. 在宅医療・介護連携電話相談窓口（枚方市医師会委託事業）

- ▶ 対象 介護支援専門員をはじめとした医療・介護・福祉従事者
- ▶ 今までにあった相談（対応例）

相談者	相談内容	対応
開業医	難病患者。かかりつけ医を教えてください。	近隣のかかりつけ医を紹介。 訪問看護ステーションに引継ぎ。
介護支援専門員	病院主治医より、かかりつけ医を持つように説明された。利用者の家族はまだ戸惑っている様子。どう進めていけばいいか。	病院主治医とかかりつけ医の役割を説明。 家族への説明は、現在利用中の訪問看護ステーションから勧奨する方法を提案。
介護支援専門員	ここ最近、利用者は病院への通院が難しくなっている。介護保険認定更新のために往診してくれる医院を家族が探しているが、どうすればいいか。	往診可能な医院はあるが、介護保険認定更新のみを目的とした利用方法は難しいと考える。 まずは、近隣の医院に相談を。
病院MSW	要介護認定を受けている患者。認知症進行のため、自分で医療処置ができなくなってきた。医療保険での訪問看護利用は可能か。	現在、介護保険サービスを利用中であり、医療保険制度のサービス利用はできない。 ただし、医師の特別指示書があれば、日数等の条件はあるが訪問看護利用は可能。

令和3年度
新ちらし
同封の資料を
参照してくだ
さい

医療・介護専門職向け 令和3年度 枚方市在宅医療・介護連携推進事業

在宅医療 電話相談窓口

「そうだ！電話しよう！」

令和3年4月～**リニューアル!!**

地域の**訪問看護師**による相談対応

- ✓訪問診療や往診をしている医院探し
- ✓在宅看取り
- ✓医師との連携
- ✓医療系サービスと他の制度との調整方法等々

お電話ください 電話：080-8523-2882
開設日：月・水・金 午後1時～5時

事業に関するお問い合わせ先
一般社団法人 枚方市医師会：072-845-0252
枚方市 地域健康福祉室 健康福祉総合相談担当：072-841-1401

どうしよう? ...と思ったときに
お気軽に
ご利用ください

在宅医療・介護連携推進の取り組み

2. 多職種連携研究会

令和2年度の取り組み

▶ 圏域レベル

地域包括支援センターを中心とした多職種連携の取り組み

- ・多職種連携研究会の運営：アドバイザーとして非常勤コーディネーターの参画
- ・地域課題の抽出、検討

▶ 市域レベル

- ・多職種連携検討部会：各多職種連携研究会の取組み、地域課題の集約
- ・在宅医療と介護連携に関する支援業務委託（医師会委託）：事務局会議

医師会との
在宅医療・介護連
携に関する課題の
共有及び検討に
むけた連携強化

第8期（令和3年度）

【拡充】新たに専任コーディネーターを設置：医師会との課題等の共有・連携強化

ひらかた高齢者保健福祉計画（第8期）重点施策② 終活支援の取り組み

令和2年度までの取り組み

市民が自ら人生の最期をどのように過ごしたいかを考え、選択できるように
看取りや意思決定に関する市民向け及び専門職向けのリーフレット等を作成、配布



第8期（令和3年度）

普及啓発の更なる取り組み推進へ



同封の冊子を
参照してください

ぜひご活用ください

ひらかた高齢者保健福祉計画（第8期）重点施策③ 認知症施策の取り組み

令和2年度までの取り組み

- ◆ 認知症の早期発見・支援の必要性の周知
 - ・ 普及啓発：認知症の動画 ←ぜひご視聴ください
- ◆ 徘徊高齢者の見守り支援の強化
 - ・ 徘徊高齢者等（行方不明者）SOSネットワーク事業 ←事業者登録をお願いします
 - ・ 認知症高齢者等家族支援事業（みまもりあいステッカー） ←アプリ登録をお願いします

受付場所：健康福祉総合相談担当

【拡充】健康福祉相談センター北部リーフ（令和2年11月～）



▶ 第8期（令和3年度）

【拡充】各地域包括支援センター（令和3年4月～）

高齢者の健康づくり等に関する実態調査（令和2年3月）

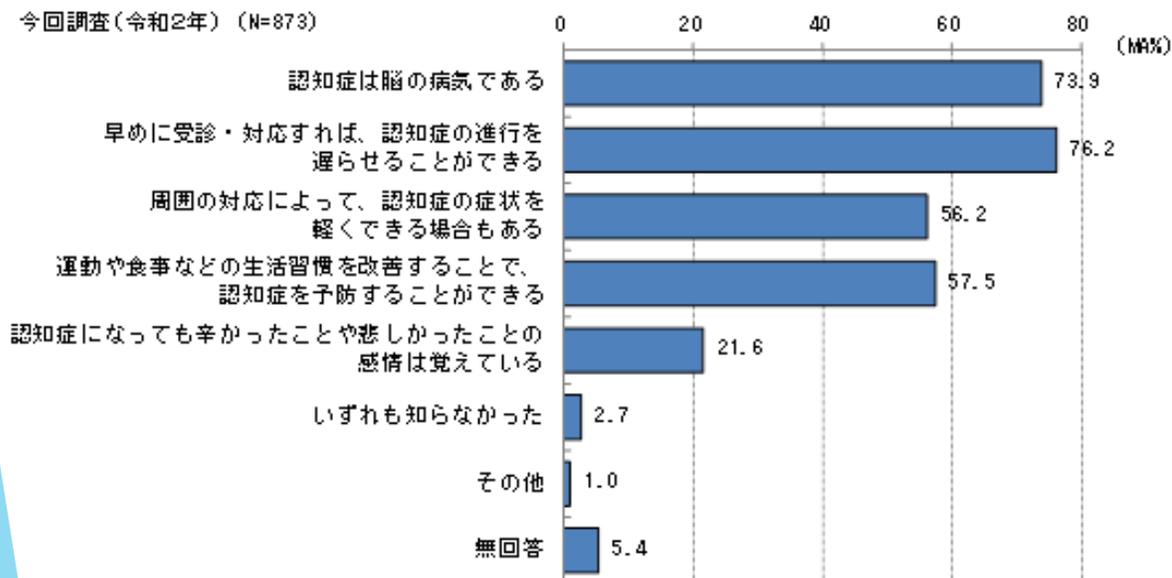
- ▶ ひらかた高齢者保健福祉計画21（第8期）の策定に向け、市内に在住している要支援・要介護認定を受けていない65歳以上の人1,300名※を対象に令和2年1月実施。

※日常生活圏域13圏域ごとに100名ずつ無作為抽出・無記名調査。郵送による配布・回収。

- ▶ 回収状況 有効回答数 873件（有効回答率67.2%）

結果報告書より抜粋

【設問】 認知症について、知っていることはありますか（新設）



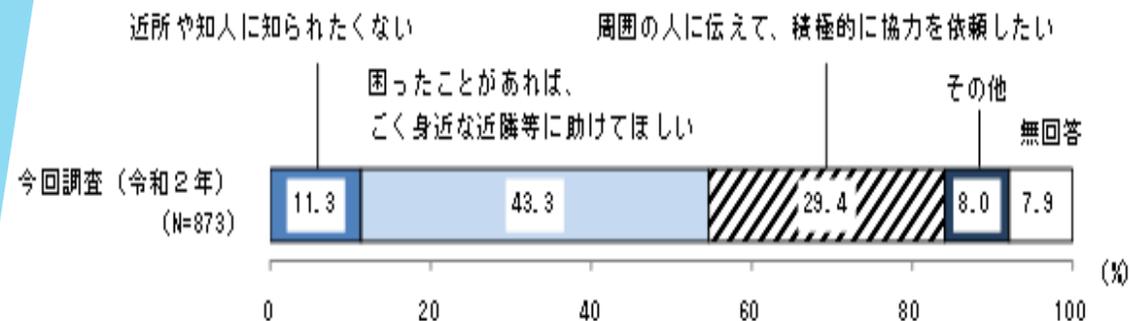
認知症について知っていることは、「早めに受診・対応すれば、認知症の進行を遅らせることができる」が76.2%と最も多く、次いで、「認知症は脳の病気である」が73.9%となっている。

性別にみると、男性は「認知症は脳の病気である」、女性は「早めに受診・対応すれば、認知症の進行を遅らせることができる」が最も多くなっているが、どの項目も女性のほうが認知度が高い。

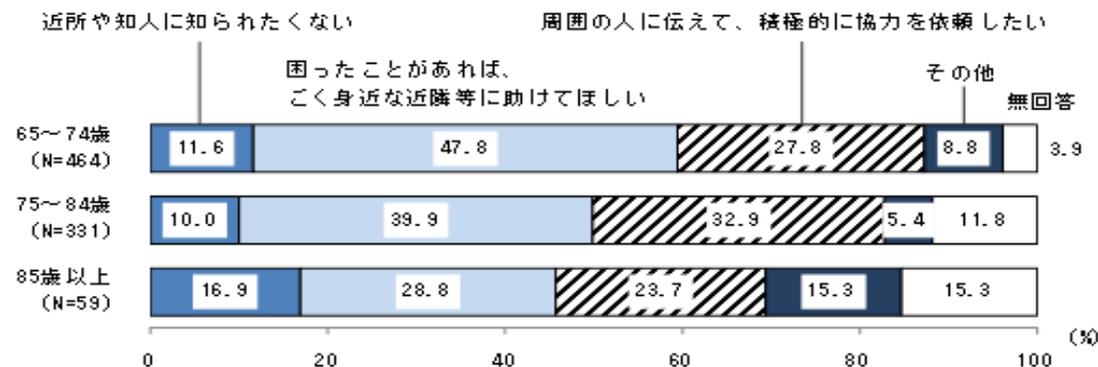
年齢別にみると、84歳以下では「早めに受診・対応すれば、認知症の進行を遅らせることができる」、85歳以上では「認知症は脳の病気である」が最も多くなっている。

【設問】あなたや家族が認知症になった（わかった）とき、近隣の方との関係性はどうしたいと思いますか（新設）

【認知症になったときの近隣の方との関係性】



【認知症になったときの近隣の方との関係性 年齢別】



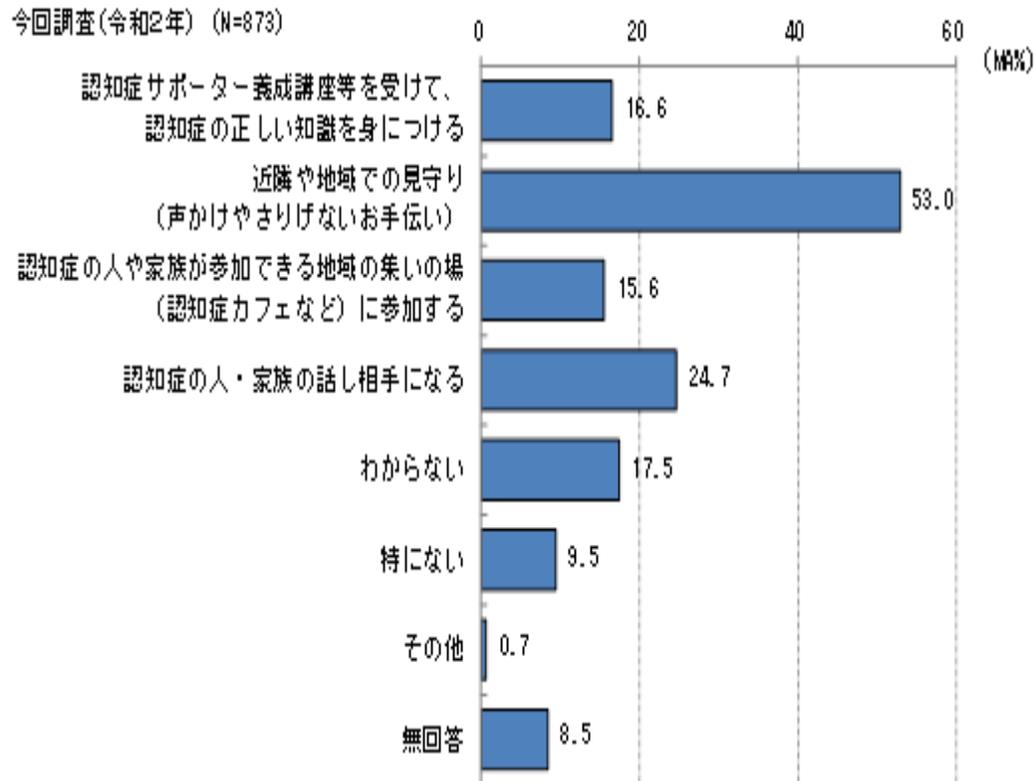
自身や家族が認知症になったときは、「困ったことがあれば、ごく身近な近隣等に助けてほしい」が43.3%と最も多く、次いで、「周囲の人に伝えて、積極的に協力を依頼したい」が29.4%で、近隣や周囲に協力してほしい人は合計72.7%となっている。一方で、「近所や知人に知られたくない」は11.3%となっている。

性別にみると、近隣や周囲に協力してほしい人は男性で69.4%、女性で76.4%と女性で多くなっている。

年齢別にみると、近隣や周囲に協力してほしい人は65～74歳で75.6%、75～84歳では72.8%で、85歳以上では「近所や知人に知られたくない」が16.9%と他の年齢層より多くなっている。

【設問】 認知症の人が地域で暮らすために、あなたができそうなことはありますか（新設）

【認知症の人が地域で暮らすために自身ができること】



認知症の人が地域で暮らすために自身ができることは、「近隣や地域での見守り（声かけやさりげないお手伝い）」が53.0%と最も多く、次いで、「認知症の人・家族の話し相手になる」が24.7%となっている。

性別にみると、男女ともに「近隣や地域での見守り（声かけやさりげないお手伝い）」が最も多く、次いで、「認知症の人・家族の話し相手になる」となっているが、いずれも女性のほうが多くなっている。

年齢別にみると、どの年齢層も「近隣や地域での見守り（声かけやさりげないお手伝い）」が最も多く、次いで、84歳以下では「認知症の人・家族の話し相手になる」、85歳以上では「認知症の人や家族が参加できる地域の集いの場（認知症カフェなど）に参加する」となっている。

認知症施策の取り組み

認知症高齢者等家族支援事業（みまもりあいステッカー）

- ▶ 受付窓口の拡充
(令和2年11月～健康福祉相談センター北部リーフ、
令和3年4月～各地域包括支援センター)

- ・みまもりあいアプリ協力者募集の周知

みまもりあいアプリ協力者募集 ～地域で見守るやさしい街づくり～

高齢者等が行方不明になった際、捜索の協力者を募集しています。普段の生活の中で該当の高齢者等を見かけた時のお声かけをお願いするので、**積極的な捜索活動を依頼するものではありません。**
※みまもりあいシステムは、捜索依頼者・協力者の個人情報を守った状態で通話ができる早期発見・早期保護につなげるための見守りの仕組みです。

ご家族等

行方不明になった時
専用アプリの捜索依頼ボタンを押すと、協力者に捜索協力依頼が配信されます

ご家族等

発見したら・・・
発見したら、みまもりあいステッカー（※）もしくはフリーダイヤルに電話掛けると、家族の連絡先に転送され、直接話すこともできます。

協力者

捜索依頼が届きます
専用アプリから協力者に捜索依頼が届きます。協力者は配信された捜索依頼情報が閲覧できます

協力者とは・・・
専用アプリに協力者として登録いただいた方。
現在は市担当課職員や地域包括支援センター（高齢者サポートセンター）職員が協力者です。今後、介護保険事業所職員や地域の店舗、地域住民など協力者拡充予定！

ご家族等

無事に保護を確認したら
家族は、アプリの「みつかりました」ボタンを押します。すべての配信先にお礼の通知が配信され、「捜索者情報」は自動的に削除されます。

地域住民
「お買い物や散歩の時に気にかけておこう」

介護関係職員
「送迎や訪問の業務が多いので、移動の時に見ておこう」

店舗スタッフ
「該店の方が来店されていないかな」

協力者に送られる捜索者情報
60歳以上のご家族様
SOS 1234567890
TEL 0123-456-7890
性別 男/女
年齢 60歳
身長 150cm
髪色 黒
髪型 短髪
服装 赤いシャツ、黒いズボン
特徴 眼鏡、髪を後ろで束ねる
住所 東京都千代田区千代田1-1-1
電話番号 0123456789
住所 東京都千代田区千代田1-1-1
電話番号 0123456789
住所 東京都千代田区千代田1-1-1
電話番号 0123456789

認知症施策の取り組み

認知症サポーター養成講座受講後の支援

- ▶ 認知症サポーター養成講座受講後に活動を希望するサポーターに対して、地域での継続活動を支援

イメージ図

